

## 第4回 図書館・美術館基本設計市民懇談会 概要

1. 日 時 平成23年8月3日(水) 13時30分～15時05分

2. 場 所 明道公民館 2階 第1研修室

3. 出席者

### 委 員

細田智久座長、田中国彦職務代理、中川容子委員、長田昭夫委員、黒田正勝委員、  
渡邊眞子委員

### 事務局

#### 教育委員会

本池教育委員会事務局長

#### 文化課

角教育委員会事務局次長兼文化課長、長谷川係長

#### 生涯学習課

永見生涯学習課長、渡部課長補佐

#### 図書館

政木図書館長、伊藤副館長

#### 建設部

#### 建築住宅課

湯澤建築住宅課長、堀江主査、前田係長、西村主任

#### 企画部

#### 地域政策課

内田課長補佐

白兔設計事務所(基本設計受託業者) 4名

## 4 議 事

(1) 開 会

(2) あいさつ

(3) 議 題

図書館・美術館整備基本設計(案)について

――事務局から修正点について説明――

### (細田座長)

はい、それでは、資料に沿ってですね、先ずは周辺環境整備計画。ちょっと図書館のデッキスペースにもからむかもしれませんが、ご意見戴いて、その後、図書館、美術館というふうにご意見戴こうかと思っております。

### (渡邊委員)

先週、帰りに駐輪場になっております所をもう一度見に行きました。実際、私も20年ちょっと図書館に通っていて、ここが美術館の方も図書館利用者が駐輪場として使ってよいという事を知りませんでした。

市役所側を向いている事と図書館・美術館側からは段差があってあがりにくいです。

1箇所だけなだらかな所があって、一番端っこに至るまで段差がすごいです。自転車をもってあがらない限り、中に突っ込む事は大変。おまけにその美観を損なわないようにとこのようなご意見で、図書館と美術館側にオープンになっていないという事なので、とても使い勝手が悪いと思うんですね。一般の人から聞いても、これはもう市役所側の駐輪場だという認識があって、何人かに聞いたら、この予算で市役所の駐輪場の建て替えはやめて欲しいというような意見まで出るので、オープンスペースをせめて、5ヶ所ある駐輪場の1、2ヶ所はせめて、図書館・美術館側の方にも向けるという工夫をして戴きたいというご意見を戴きました。

更に看板も何も出ていないので、「図書館・美術館利用者の方の駐輪場」という標識も書いて戴きたいという事を受け賜って来たので伝え致しました。

もう1点、田中委員さんとか中川委員さんとも一緒に見たんですけれど、この図面の1番端なんですけど、生け垣が有ります。前回本池事務局長さんが、あそこはあくまでも、軽しか入っていないとベビーカーとかお子さんの表示をしてもらったら、その下のところに委員長さんも描けるということをお願いしたんですけども、駐車場が。軽のスペースになっているっていう事で、もう1回見に行ったんですけど、この生け垣を取ってしまったら、(駐車場が) 拡がるんじゃないかという事と何の為にこの生け垣が必要なのかっていう事を教えて戴きたいんですね。あっても、あんまり意味ないような気がするんですけど、この緑の生け垣。

毎週来ることあるから、見ているかもしれないんですけど、剪定をされたりして、利用者側からとったら、結構邪魔なスペースに感じるんですけど、

この生け垣の撤去をすれば、ここはもう少し広く使える場所になるんじゃないかというご提案をさせて戴きたい事と、全部とってしまうとスムーズに駐車場から、図書館・美術館側に行けるという事をもう1回確認して戴きたいと思います。

#### (永見課長)

先ず駐輪場でございますけれども、確かに今、渡邊委員さん、おっしゃいますように、段差がございます。

それと現在の利用実態からしたときには、やはり出来た経緯というのが、あそこの駐輪場は市役所が出来た時に、出来た駐輪場。それと図書館は図書館が出来た時に出来た駐輪場。美術館は美術館が出来たときの。そういう出来た経緯が有りますので、どうしても皆様の意識の中に、あれは市役所のものだとか、図書館の人のためだ、という意識を持たれることは、おっしゃる通りかもしれませんが、今回はあくまでも3施設の利用者の為の駐輪場整備という視点で行っておりますので、先程のご提案にもございましたように、サインですとかそのような形で工夫しながら、皆様が使って戴きやすいような形については、検討したいと思っております。

#### (渡邊委員)

よろしくお願ひ致します。スロープも含めて。向きも1ヶ所か2ヶ所はそっち側に向けるようにお願ひ致します。

#### (永見課長)

駐車場でございますけれども、現在植栽が有りますが、これは、憩いの広場・憩いの道整備をする時にベンチですとか、インターロッキングが整備されたものと思いますが、あくまでもあの植栽は、市道上にございます。

ただ市道と民有地を取り込んだ形で、憩いの道を整備しておりますので、なかなか境界が、わからないんですけれど、外形上は。

あくまでも市道は直線的に9号線側から、明道公民館の前を通過して、合同庁舎までございますので。あくまで、あの植栽は市道の上にあるものでございます。

**(渡邊委員)**

市道の上だけれど、管理している、植栽管理とあれに係わる経費、植栽を剪定するとか、それはどこから出る費用なんですか。

**(永見課長)**

市です。

**(渡邊委員)**

米子市が払っているんですよね。随分無駄なお金を払っているような気がするのですが、この際、あの植栽をとっちゃうっていう事は出来ないんですか。

**(永見課長)**

それも方法としてはございますが、今回の整備計画の中では、そのまま残しておこうと。

今回の東側駐車場と市役所の間にあります植栽は、皆様方の、歩行者の動線を確保する為、撤去致しますので、今回の整備については緑が豊かな地域という事もございますので、やはり出来るだけ緑を残したいという部分もございますので、今ご指摘の植栽部分のツツジについては残すというふうに考えております。

**(渡邊委員)**

せめて半分にするとか、公園があるわけですから。ここは公園にするわけではないので、芸術空間なので、緑は前からいったように花回廊に見に行けばいい事であって、これだけある植栽が本当に邪魔なんです、という意見として受け止めて戴けたらと思います。

**(長田委員)**

私は、美術館の側から出ていいるような格好ですけれども、私は、運営協議会ですから、教育委員会側の方の事を美術館の方から色々聞いて、いつ開いたらいいのか、みんなで仲良く使うのはどうしたらいいのかという事を聞く役だったんですよね。

その立場を、みんなご苦労とか、予算が無いとか、大きな絵は入らんとか、色んな事が有る中で、目的がどっかに、設計の中に見えていないといけないと思うんです。

外回りの話ですけれども、滝があって、壁が汚れとって、音ばかり高く、色々苦情もございましたね。

周囲の木でもなんでも、後は市の予算でうまくきれいに、文化的な品位のある施設として周囲が盛り上げるような、(手入れがしやすいという意味)、施設であって欲しいと思います。森があっても、下に草が生えていたではいけませんし。そういう事が、業者さんでもちゃんと出来やすいような。

例えば、滝だったら、壁がなぜ掃除してないかと、いつも思ってたんです。ガラスも曇って。掃除屋さんを1日頼めばある程度きれいになると思ったので。

そういう所まで、配慮しながらこの周囲のものを考えていかなきゃいけない。

外観的に見ますと、いま、レンガの模様ですね。これは変わらないんですかね、模様は。

なんかヨーロッパ調ではなくて、なんか英国調に見えますけども。

**(細田座長)**

たぶんプリンターのあれだと思いますけど。今の色合いですよね。

### (長田委員)

絵がこれだけあるから、ちょっとわかんない。非常にスマートにいい絵が描いてありますけども、今あるいい所は残すのがいいのか、変えようと思ったら、大変なまた費用になるのかなあと。これは外の話ですが、中の、例えばトイレも空間がないから出来なかった、あるいは、男女ともはなかなか出来なかった、2階は出来なかった、というようないろんな話の中で、トイレにしても品格のある便所ってというのはなんだかおかしい言い方ですけども、図書館に、美術館に入ったけどほんにこれは美術館らしい、本当になんか美しいといっちゃおかしいですけどね。そういうムードがちゃんと考えてあるだろうと思いますけどそこまで全部直されるだろうかどうかどうだろうか。今の剥げたところだけ塗られるのか、天井はどうされるのかって、これはまだちょっと分かんないですけども。美術館の目的っていうのは、芸術品をうまくしまいたい、いいのがあったら買ってきたい、置いときたいという中で、空間があるだけ2段に積みばいいだないかというやな話があった。ところが、芸術品ちゅうのは、そう積んで置けるようなもんじゃないんで、だから、空間としてはおそらく、所蔵品を全部きれいにこれから買って中に入れる空間はおそらくまた、ある程度考えてもらったら無いじゃないかなと思いますので、今ある、今度使える広さの中で貯蔵しやすいようなところまで、予算の気配りがしてあるかどうかっていうことをちょっと聞いておきたい。

皆さん心配しておられて、例えば彫刻、掛け軸なんかでも湿度とかなんとか考えますよね。そういうとこまできちっと品位ある所蔵品をしまっておけるように狭くても楽しい我が家だないけど、きれいにしてあるかということをお心配しておられました。

今、市民の声の代弁しておるわけで、20人ほど聞いてみたんです。主に今まで図書館・美術館の中で運営に入っていらっしゃる方ちゅうと、写真の代表あり、絵の代表あり、日本画あり、洋画あり、そういう話のなかでだいたい落ち着いたところで出来そうだけでも、本当かやという話があったもんでそこをちょっと確かめておきたい。

それから、ムードにしても、いい滝があったけど、それに代わって、そこが空間になったから分かりませんが森でも、木が生えとつても、きちっと定義がしやすくて、いつでも美しい空間であるように。それから、楽しいだけでなく、品位のある空間であるようにというご希望のかたもありました。それから、その点トイレなんかは改築なさるのかなあという話がありました。これはもうお伝えするというこで。

### (永見課長)

外観につきましては、従来からお話させて戴いておる所でございますが、図書館・美術館・市役所を囲むこの地域でございますので、それぞれが、調和をした外観というのは確保したいと思っておりますし、先程も言いますように非常に緑が育って豊かな所でもございますので、これを大切にしながら、整備を進めていきたいというのが、外観に対する考え方だと思っております。

### (中川委員)

実は創作交流広場の所で、以前より本当に良くなったと思うんですけれども、やっぱり米子はやっぱり「彫刻の町米子」をうたっているわけですね。それで、この前も田中委員から、シンボリックなものという話が出たんですけれど、美術館としても野外彫刻。

折角米子は色んな所に野外彫刻があるのに、米子市の美術館の所にはないんですね。図書館の所にあった彫刻はどこに行くのかよくわかんないんですけども。やっぱり、こ

これは今の予算では出来ないかもしれませんが、二次予算、三次予算でもいいですので、折角色んな彫刻の作家がたくさん今迄来てくださって、今こそ美術館にその野外彫刻のいいのを。

いいのっていったら、語弊があるかもわかりませんが、是非設置するような方向性。今回の予算では出来なくても、二次予算でやっぱり組み込んで戴きたいなと思っておりますけれど、いかがでしょうか。

#### (角次長)

創作交流広場、少し変えさせて戴いたという所です。で、ここをどうするかっていうと、ここは活動の場と、1つは考えていこうというふうに思っています。

中川委員さん、おっしゃる例えば彫刻だという話なんですけども、前の彫刻っていうのは実は、ここの思いやり駐車場の真ん中にありますね、ここの中にですね、一応設置するという事しております。で、それ以外にじゃあシンボリックなものは、という事なんですけども、実はですね、美術館の美術品を購入する基金というものをもっておまして、これ別枠で持っております。で、それを活用する、しないというのは、また、長田先生を始めとした協議会の方ですね、オープンに合わせて何がしかの検討をするという事は有り得るかもしれませんが、今の所、議論になっておりません。ただ今回の予算を余ったとか足りないというような中で、それを捻出するのではなしに、別枠でそれは考える事でございます。

#### (中川委員)

どこの美術館に行っても、アプローチにまず、彫刻があつたりすると、本当にこれからこう鑑賞するのだからという楽しみがやっぱり増えますよね。折角、米子は彫刻の町を標榜しているわけですから。ここに本当にシンボルに是非、是非置いて欲しいなど。新しい作家の人にまたつくって戴きたいなと思っておりますので、よろしくお願い致します。

#### (細田座長)

長田先生よろしく申し上げます。

それは市の方に要望、今されましたし、長田先生を中心に美術館の方でも基金をお持ちということですかね。

#### (長田委員)

憩の道ですかね、ムードいい具合に考えてあってとってもいいんだけど、この際手入れが出来なくて汚れとったんじゃないけませんし、外のトイレでもあるかもしれませんが、やっぱり品格がないと、こういう文化地域には向かんといい気もありますよね。

例えば、美術館・図書館の古い部分は修理なさいますが、修理の具合というのは、美術館も図書館も、例えば現状、これ古いけん変えるとか、なんていうとこまで行きますか。

#### (細田座長)

今回かなり内装もいくと思うんですけど、美術館のほうでお聞きしたいと思います。

#### (渡邊委員)

すいません。最後にあたし。

前回から申し上げていますように、図書館・美術館の中身が問題であって、周辺の完備をしていくとかがっていうのは予算が残ったら。本当にこのギリギリの中でやっていて、広く1.5倍になっても、(児童図書以外は)図書館は本が増えないという訳ですから、意味が無いんですね。それなのに、緑があつて憩う場所だとか、色んなものを使って、つくっ

ていくんでは無くて、中身を先ず充実させていく図書館・美術館であって欲しいなと本当に願います。環境整備を整える事は大事かもしれませんが、今後ずっと落ち葉が有りっぱなし、刈り込みも出来ないような植栽を残すという事ではなく、ベンチのように人が使って、有りがたいもの。

前回は申し上げたように高専の学生さん達が、ここに色んなベンチをつくって下さる事は大賛成ですけれど、それ以外にも植栽を増やすとか、そういう事をされたが為に予算がどんどん無くなって、大切な本の予算が削られるとかそういう事があってはならないと思いますので、強くそれは要望しておきたいと思います。

#### (田中職務代理)

先ず、先程おっしゃったデッキテラスの件ですけれども、デッキテラスっていうのは前回も私の思いは伝えたつもりなんですけれども、今回も施設のコンセプトが、人と自然にやさしい文化・芸術空間という事で、コンセプトとしては、このように言葉で人と自然にやさしいとかいうものが使ってあるんですけれども、そのコンセプトがこの設計に全然表れていないと思います。なので人と自然にやさしいっていうものを、この図面に表す意味でもこういったデッキテラス。

デッキテラスがあって、そこで子どもが自由に本を読める、で周りには水があったり緑が有ったりという事で、デッキテラスっていうのは、是非とも復活させて欲しいという事でお伝えしました。

デッキテラスが出来た場合に、どういうふうに立面に出るかと思って、立面図をお願いしました。出てきた立面は、デッキテラスが出来ても、管理の面で壁が出来てしまうという事で、私のイメージとしたら、この図書館で、児童開架部分で、子ども達がデッキで本を読んでいる姿が外から見えるというイメージでずっといたんですけれども、このように扉で囲ってしまったら、デッキテラスの意味が半減してしまうというふうに思いました。

管理の部分っていうのはあるんですけれども、管理ばかり優先して子ども達に、閉鎖的な空間で本を読ませるっていうのは、全く無意味になってくるというふうに思いました。

デッキテラスっていうのは、今回の図書館のシンボルとして、象徴として何かもう少し工夫が出来ないだろうかというふうに思いました。

もう1つは図書館棟の思いやり駐車場の位置ですけれども、これ以前にもここでいいのかっていう話が出たと思うんですけれども、敢えて、エントランス広場の開口部という一番広い空間の隅に、2台の思いやり駐車場があるのかどうか。

私が前回提案させてもらったのは、高齢者の方や障がい者の方を乗せた車が、美術館の前、あるいは図書館の前までいける、車寄せっていう意味です。

図書館、美術館の入口まで許可を得た車が行けて、そこで高齢者や障がい者の方を降ろして、その車は別の駐車場に持って行くという意味で車寄せという言葉を使って説明させてもらったんですけれども、今回のものはそうではなくて、車止めと植栽でエントランス広場には一切車もなにも入れなくなって、2台の思いやり駐車場の所に車を停めて、ここから歩いてくださいというふうになってます。

整理すると、図書館の方の思いやり駐車場2台の場所がここでいいのかどうかっていう事と、車止めで車を一切止めてしまってますけれども、そうではなくて美術館・図書館の入口に近づけるような安全な車導線というものが有れば、障がい者方、高齢者の方も使いやすいものになるんじゃないかなというふうに思います。多分このエントランス広場の入口

部分の整理っていうのは再度必要ではないかと思います。

(細田座長)

田中委員の方からデッキテラスの壁の部分にもう少し工夫っていう話と、思いやり駐車場、図書館分ですね。ここが、小さなロータリーのようなものに置き換えてはどうかというご提案が有りましたけども、これは、委員の皆さんどうでしょうか。

(渡邊委員)

私も田中委員の言われたように、ここで思いやり駐車場の位置としたら本当に玄関まで歩いて下さいですね。ちょっと位置はまずいかなあと思います。

それから先程のお子さま達もそこで読めるというデッキテラスの事は、実際、色んな図書館の使い方も有ると思うんですけど、実際その親子読書室を利用して、お話をしているグループとか、図書館でそういうボランティアをしていらっしゃるグループとその図書館職員の方達がもう1回、再度お話をする場をこれとは別に設けて、こういう形はどうですかっていう事をして戴けた方がいいんじゃないかなと思います。ただ、外から見た感じだとかではなく、使ってみる人達の意見を尊重して戴きたいなと思います。

(細田座長)

デッキテラスの壁は、壁だとよじ登れてしまうので、もう少し、足元まではコンクリートなんだけど、上側は生け垣とか、要は、まあ登るとチクチクするというか、登れないというか、そういったものにちょっと子どもの動きに合わせて変えて戴くと、今度は外側からも生け垣越に葉の間から雰囲気分かるというような形がいいかなと思います。

思いやり駐車場をミニロータリーにするっていうのは、どうでしょうかね。位置的なものとか導線の交錯なんかでかなり今後も検討されないかもしれないですけども。

————— (細田座長と田中職務代理の間で図面を見ながら会話) —————

(細田座長)

今、田中委員のいわれた事を整理すると、ちょっとあれですけど、ここっていうのは(美術館南側の搬入口付近) 思いやり駐車場を増やせるんですか。

(永見課長)

今の予定では、搬入業者等がそこに駐車をするように考えております。ですから現在は8台くらい。

(角次長)

入れようと思ったら何台か入りますけれども、まあ搬出、搬入に結構出入りが激しいもんですから、このくらいのスペース。それと後は大きなトラックも、一応、公道ではない所でちゃんと方向転換が出来るというような要件も若干あるんだそうでした、そういったような所もクリアする為に、ここを空けております。

(細田座長)

でも今、この辺まで来てると思うんですけど、だからこの辺で7台は無理にしても、6台ぐらいにして、ここは芝生にして、なんか一応車はこの辺まで来られるようにしておいて、この辺で最寄のところを下ろすと。そういう意見だと思っと思うんですけど。そういうのもあるかなと私、思いますけど。

(田中職務代理)

その前に図面を見てみると、要は図書館用の思いやり駐車場が2台、美術館用の思いやり駐車場が4台というのも既におかしいなと思います。

**(永見課長)**

これはあくまでも、このスペースに6台、先程の駐輪場と同じ理屈ですけれども、皆さんでお使い戴くと。

**(田中職務代理)**

そういうことで有れば、逆にここに2台を、わざわざこんな良いところに設ける必要が有るのかどうかと。

**(細田座長)**

最初からいろんな議論があった部分ですね。

確かにこう立面図なんかを見ると、ここにいろんなものがあるって、見たときに屋根とかいろんなものがあったりして、確かに見にくいですね。整理されていないというか、色んなものがちゃがちゃがちゃつとなっているというか。

**(渡邊委員)**

ここに屋根をつけても、本当はここまで入っていただけますよね、車椅子で。入って行って降ろしますよね、身障者の方を。で、わざわざ屋根付きの所に戻すっていうのも変じゃないですか、車を。この屋根はいらないわけでしょう、この2台分の所は。

**(角次長)**

連れてきて戴けるのはごく恵まれた方で、身体障がい者の立場で見れば、要は自分でちゃんと自分の力で、最後まで行きたいっていうのは、1つの願いですので、それに対応するのが今回の目的でございます。

**(渡邊委員)**

なかなかここまで来るのが大変ですよ。でも自分でこられるだけのパワーがあるんですね。

**(角次長)**

屋根の下に車を入れて、ドアを全開出来るというのが1つの条件です。そこで車椅子に移動されて、ドアを閉めて、屋根の下を通る事によって、安全に玄関までたどり着けるというのを1つの目的にして、ここは、つくっています。

**(渡邊委員)**

実際1人で、そうやって来られている方も、今いらっしゃるんでしょうかね。

将来的な事も考えて、ですかね。

**(角次長)**

むしろそういう事だと思います。頻度の問題ではなしに、身体障がい者の立場で考えるとかこういう設計になりますよという事です。

**(細田座長)**

もしも家族と来られた場合には、BM（ブックモービル）が入る入口も、言えば開けてもらえる、ということですよ。たぶん、運用上で何かあると思うんですけど。このへんちょっと難しいですね。

**(渡邊委員)**

家族で連れて来た場合にここまで戻るのが大変なんですね。親を置いておいてここまで大急ぎで戻らないと。



(長田委員)

美術館の思いやりは4台あってもなかなか停めにくいです。

(細田座長)

確かに美術館の駐車場停めにくいですよ。

(長田委員)

停めにくいし、道も狭いし。

(細田座長)

今すぐ答えはでないかもしれませんが。

(湯澤課長)

基本的な事を申し上げますと、先ずこのエントランス広場に車を入れてという事は歩車道分離という事で、駐車場から、ここまで歩くのに安全にというお話と同じ意味合いがあります。

誰でもかれでもこの中に車で入れるような状況にしておきますと、それ自体が危ないという事になりますので、先ず、きちんと分けて、先程、細田委員さんもおっしゃいましたけども、入口のところに、電動リモコンで稼働できるチェーンを付けるように考えておりますので、先程の話の中にあつた、許可された方とか、そういった方が来られた時にそこを降ろして入って載いて、降ろされて、出て載いて。

頻度的な所があると思うんですけども、数が少ないでしょうから、そういう時には運用面に対応をして、基本的にはきちっと分けておくというのが、この中を安全に使って戴くという意味合いでは重要ではないかなというふうには考えて、こういう形にさせて戴いているところではございます。

(細田座長)

田中委員、どうでしょう。運用面でという話と、身障者が、障がい者が自力でこれる将来性を見越してということでした。よろしいですかね。

(長田委員)

この道にはランプがずっとありますよね。

照明。ちょっとムーディーな。あれはずっと生かされるわけですか。

(湯澤課長)

市道部分にございますガス灯は、基本的には、残すかたちになると思います。

(長田委員)

あれは、よう考えてあるなと思うけど、生かすならもうちょっと生かしたほうがいいと思うし、ここはあまり車の大体出入りする道じゃないんで、障がい者の方だけにするとか。っていうことでもないんですね。

(細田座長)

障がい者の方と後は搬入だけですね。基本的には。

(渡邊委員)

基本的にはそうですね。障がい者の方と搬入業者。先程いわれた許可された色んなものを運ぶっていう形の、搬入ですよ。

(細田座長)

いろいろありますけれども、駐車場部分については運用面でかなり工夫して戴くという事と、デッキテラスの前側の壁については、かなり工夫して戴くとか、子どもさん、親子

連れさんによくリサーチしてもらおうとか、設計例を設計事務所さんに調べていただくというようなことを今後して頂きたいといというふうに思います。

生垣とか設計例、施工例を調べていただいて工夫して頂きたいと思います。

図書館の方に移りましょうか。図書館の中の事についてご意見あるかたがおられましたら、よろしくお願ひします。

**(渡邊委員)**

確認をしたいんですけど。3ページのところにあります、児童書の開架スペースの真ん中にあるカウンターっていうのは、取り敢えず、可動式じゃなくて、固定式での考えでよろしいでしょうか。

**(政木館長)**

これはあくまでも書架の配置にしても、カウンターの配置にしても、1案です。

**(渡邊委員)**

ここではないけれど、つけて欲しいという意見がかなり出ていたので、つけるという方向ですか。

**(政木館長)**

ただ、これについては職員の配置等にも関係する事ですので、これをつけたから、職員が1人追加になるという事を、この場で確約は出来ません。

**(渡邊委員)**

この場では出来ないと思うんですけど。

**(政木館長)**

ここではカウンターを設置する事が出来るスペースを確保するという意味です。

**(渡邊委員)**

ですね、はい。職員問題、今回のこれとはまた別個の事にもなると思いますので、児童書の開架スペースも増えて、更に1.5倍になる中で、カウンター無しという事は到底考えられませんので、そこを設置の方向でいって戴きたいと思います。それから、お話コーナーの所ですけど、間仕切りの壁になっているんですけど、前回も申しあげましたように、ここを全く仕切ってしまうじゃなくて、半分はガラスという形を、是非考えてください。

**(政木館長)**

それについても、実施設計で行う部分ですので、ここでは、1案という事で。

**(長田委員)**

渡邊委員さん、2階ですかね、多目的研修室、だいぶ広いですよ。

美術館の方は拡張も出来ないし、スペースがどうせ足らんだろうなといういいながらこれでしゃあないんだけど、図書館が今度、新築するらしいから、ある程度、児童の絵画展覧会くらいだったら、出来るようなのが出来るらしいという事で、だいぶ、あてにしておられたんですけども。これは、使っていいんですか。

**(政木館長)**

両方(図書館・美術館)で使うという事で考えております。

**(長田委員)**

あまりいい絵は持ってこれんかもしれんけど。

児童展とかなんかだったらこっちをお借りしたら、という話があったんですよ。

(政木館長)

可能だと思います。

(細田座長)

市民ギャラリーをうまく使っていただくといいかもしれないですね。

(長田委員)

今どうなっているか知りませんが、映像なんかのDVDの所蔵とかなんとかはなさってるんですかね。

(渡邊委員)

なんかここ、その今言われた、今後、例えばITとか入ってくるじゃないですか。そういうのもここの中には、建築される時に、ミニ講演会とかミニギャラリーになるんですしたら、そういう映像を映し出す為にも、ITの接続が出来るような事も工夫して、是非この部屋をして戴けますと、ミニ講演会の時も、講演される方がパワーポイントを使われたり、スライド上映も出来るっていう事ですよ。そういうことですよ。

(長田委員)

そういうことですね。

(渡邊委員)

ビデオも見れるし。勿論ですよ。是非それは当たり前でつけて戴きたいなと思います。

(政木館長)

それについては、また、今後の実施設計の方で対応ができると思います。

(長田委員)

実際、図書館ですから、図書がすべてなのか。そういう映像類についての所蔵とかあるいは行事とかっていうのも考えていらっしゃるんですか。

(渡邊委員)

勿論、出来ると思いますよ。して戴きたいなと思いますけど。

(長田委員)

私、前に古い8ミリフィルムを、ある個人のぶんだけどもいい具合に貯蔵しておかんと、というので、図書館が一番いいだろうちゅうて、今預けて、市の所蔵になっているんです。

ああゆうようなものが出てきたときに、どこで所蔵してもらって、ということが常に頭にあるもんで。

それは、これからの運用的な問題ですね。

古い8ミリフィルムでいい具合にしまっておいてもらったけども、やっぱりボロボロになっておりましたので、そういうようなとこまで図書館は、気配りしていただけるのかなという事。

今、映像の時代ですから。そういう意味を含めれば本望なんだけれどもあんまりしちゃう困るけれども。

(渡邊委員)

ちょっと質問なんですけれど、前回に4ページのところに、2階のところにボランティア室を設置して戴いているじゃないですか。

ここの所の1階からもってあがるのは大変だからっていう事で、キッチンっていうのはどういう感じでなんですか。キッチンというかお湯を沸かす程度の事ですかね。

(政木館長)

そうですね。

(渡邊委員)

電気になるのか、1階だとガスでしたよね。まあ何かがここで出来るような、

(政木館長)

勿論、お湯が沸かせて、コップが洗えてという。

(渡邊委員)

くらいの事を考えていらっしゃるといふ解釈でいいんですか。

(渡邊委員)

もう1つすいません。今のボランティア室と研修室は、1回出てから出入りするという事で、もう区切られているんですね。研修室の3と4は間仕切りで、オープンにもなるけれど、ボランティア室はもう全く別の所っていう事ですよ。

(政木館長)

はい、現在の所そういう考えです。

(渡邊委員)

例えば、美術館さんで何かをされる時の講師の控え室としても使って、じゃあこの研修室の間仕切りをとって、ここでまあ、4、50名の講演会をしましょうっていう時にも使えますよっていう解釈でいいんでしょうか。

(政木館長)

そうですね、それは運用としてですね、まあ講師先生の控え室がどうなのかどうかっていう事も含めて。

(渡邊委員)

ないじゃないですか、実際図書館には。今後、そういう文化講演会とかをして戴きたいなと思いますので。

(政木館長)

1階の応接室が大体そういう時には、控え室として、まあ適切だというふうには考えております。

(渡邊委員)

じゃあ1階から上にあがると。美術館さん側が使われる時は。でもここは開いていませんよね、もしかしたら。

美術館の方もミニ講演会を使われますよね、2階を。その時はまあ1階は開いていないから。

(政木館長)

休館日っていう事ですか。そうですね、その時には。ただ美術館での応接もありますので。そこについてはお互い話し合いをしながら。そこについても運用だと思います。

(長田委員)

これはすでに済んでいる話かも知れませんが、エレベーター（美術館）ですよ。今の大きなエレベーター、あれをみんな使うわけですよ。新調ではなくて修理ですか。

(湯澤課長)

エレベーターのカゴ自体を新しいものに取り替えをします。

(長田委員)

元から。車輪とか。

(湯澤課長)

勿論、ワイヤーとか滑車とかそういった部品も含めて、新しいものにかえます。

(長田委員)

結局、絵を運ぶ大きなものを運ぶときでも入らんでように苦労した。ああゆうものも老人さん1人も同じエレベーターなんですよ。

(湯澤課長)

同じエレベーターを使うということですので、そういうことになります。

(長田委員)

特別、小さいのはつかんわけですね。駅のぐらいなやつがあると一番ええけどもね。

(細田座長)

図書館についてですけど、受付サービスカウンターからデッキテラスがよく見えるように家具レイアウトとか建具とかですね、そういったものを考慮しておかないと、先ほど言われたみたいに、もしも児童カウンターのほうに人がいない、いてくれれば一番いいんですけど、いない場合には、このデッキテラスっていうのは死角になるので、そこはよくよく計画される必要があるかなというふうに思います。

(田中職務代理)

今更なんですけども、男子トイレ、女子トイレの便器数がこの程度でいいのかなあと。

特に2階はですね、研修室でも140人。多目的研修室、その他にも研修室、たくさん有るし、そんな中で便器数が少ないように思うんですけども。

その辺も、この蔵書数だから、この床面積だから、こんだけの最低面積の便所を押さえておけばいいっていう発想ではなくて、何度も言うようにですけども、この建物のコンセプトは、「人と自然にやさしい」文化施設なので、そういった所をただ単に言葉でこっだけ表現するのではなくて、これが、図面とかプランに反映されていないっていうのがちょっと違うんじゃないですかって思います。

それと変な言い方ですけども、私達がこうやって色々、提案をしていく度に、図面がどんどん変わっていくんですけども、それはそれでいいんですけども、逆に設計者側の意図っていうか、気持ちっていうか、それがあって1回目の図面があがってきているはずなのに、それに対して、我々があーでもない、こうでもない、っていうふうに注文つけているのが、どんどんそのまま変わっていくことがなんかおかしいんじゃないかと思います。それならそれで、元々設計者の意思があってそうなっている訳ですから、設計者の方が私達の意見に対して「それはこうだから、こうしました。」というような意見交換、その設計者の方と意見交換が出来ても良かったのかなと思いました。

(中川委員)

私もトイレについては、色々な所で切実に感じてますので、少ないなと思ったんですけども。

運用面について、休館日というのは、図書館と美術館というのは、同じになるんでしょうか。それが問題で、美術館が一杯だったら図書館のトイレを使うという事が出来るんですけど、折角一体化するんだったら、休館日をそろえて欲しいと思いますけれども、いかなんでしょうか。そうするとトイレが少なくても、図書館が一杯だったら、こっち(美術館)いかせてもらうっていうのがあると思うんですけども。

(渡邊委員)

私もそこは前々から思っていたんですけど、どうして図書館と美術館の休館日を別の曜日にとっているのか、なんか理由があるのでしょうか。それが一緒になれば、こんなシャッターをつくるとか、色んな問題が解決出来ると思うんですけど。根本的に。どうしても一緒にしてはいけないという理由とかがあるんですか。で、美術館に来た帰りに図書館行こうと思っても、休みだしてというのは、結構あるんですよ。で、やっぱり市民の皆さんの使い勝手を考えると、統一した方が本来ならば楽じゃないかなと思うんですけど。

あの、そうしたら、こんなシャッターのお金がすごく浮くんじゃないですか。

**(政木館長)**

基本的には、曜日を変えること、変更する事は可能だと思います。

但し、美術館で、今想定しているのは、大きな展覧会とかを、ロングランでされる場合に、じゃあ、図書館も同じロングランで開館するのかどうか。

その時の為にシャッターを考えたいという事です。

**(渡邊委員)**

んっ。

**(政木館長)**

美術館はロングランで1ヶ月間休み無しで展覧会をされる場合に、それが例えば、図書館でその時に講演会をする場合とかが想定されるわけです。

**(渡邊委員)**

1年に1回あるかないかの想定ですよ。その為に金をかけて、このシャッターをつくってくってという必要性があるのかわかっていう事もありますよね。

この際だから、意見として今、中川委員が言われたように、あの同じ月曜日だったら月曜日で休館日っていう事を定着させると、とてもわかりやすいかなあいうのは思います。

逆にどうして曜日をずっと今まで違った曜日で今迄してこられたのかわかっていう、理由がもし有れば教えて戴きたいなと思います。美術館の職員の方もいらっしゃると思うので。

**(細田座長)**

休館日をなるべく合わせてもらおうということを要望するという事でよろしいでしょうか。

**(渡邊委員)**

そしたら、使い勝手がいいんですよ。

**(細田座長)**

田中委員のトイレの話は、これ床面積は全然増やせないんですか。床面積は。

**(本池事務局長)**

これ以上増やすと、全面改装になります。

**(細田座長)**

今、1.5倍まででしたっけ。マックスまで使ってる。

そうすると、ちょっと増えないですけど、1階については女子トイレと男子トイレの面積的な比率を変えれば、まあなにがしか女子トイレの器数が増えるっていう事はあるかもしれないですけど。2階はちょっと難しいですね。

**(渡邊委員)**

今、そのトイレの話してらっしゃる時に、シャッターってどのくらい総工費用かかるのですか。予算的に。

(湯澤課長)

今回の費用ですか。予算的にですか。

(渡邊委員)

シャッターの費用ってどのくらいなもんなんですか。

(永見課長)

仕切りの仕方によって、大きく変わります。

(細田座長)

今、田中委員から、2階の多目的トイレの入り口等をこう。

(渡邊委員)

何ページですか。

(細田座長)

4ページですね。4ページの2階の多目的トイレの入口を、ちょっと見た目は悪いんですけど、正面からドンと入れるようにすれば、女子トイレとの間の通路が、いくらか女子トイレの方に編入できるとか、そういうような工夫はあるのじゃないのかなということですね。

トイレに関しては、じゃあ設計を、1階の男子トイレと女子トイレの面積的な比率ですとかその辺を検討して戴くという事で。

(渡邊委員)

えっ、今より1つ減るだけですけどね。1つ減るだけで、私が利用している中でいつも満員で外で待っているという事は、まず今迄1回も無いです。1つ減っているだけですよね、館長さん。今より1つ減ってるだけですよね。トイレの数自体は。

(政木館長)

2階ですか。

(渡邊委員)

はい。3つしかないですから、今。

1個しか減ってないし、満員で今迄待ったってということはないです。20年間。

(細田座長)

利用状況からみたら、まあ、これでもいいということですかね。

(田中職務代理)

でも、基本的に床面積が増えるわけですよ。

(細田座長)

床面積が増えて。

(中川委員)

増えるし、今迄通りじゃなく、やっぱりどんどん利用が増えるようにしなきゃ、なんにもならないじゃないですか。

現状維持じゃなくて、どんどん色々な催し物、企画展をしたりしたら、2つでは、ちょっと。いくらなんでも。100人入ったときに。

(細田座長)

トイレについては設計を修正して戴いて、女子トイレのブースを増やすっていう方向で、検討戴くという事で、皆さんよろしいでしょうか。

(渡邊委員)

さっき、シャッターの費用を聞いたんですけど、どのくらい予算を組んでいらっしゃるのでしょうか。

(西村主任)

2千万円くらいです。

(渡邊委員)

2千万。2千万を例えば、同じ休館日にすると、本当にいらないのではないかっていう事と、シャッター事故の事が、全国で色々あるじゃないですか。子どもの事故があったり、まあ点検等は子どもがいない時にすればいい事ですけど、大人だってなんだって、シャッターの事故とか色々なメンテナンスの事考えると、恐ろしいものも有りますし、する必要が果たしてあるかどうか。あの休館日を合わせれば、とは思うんですけど。

で、(美術館が)ロングランになった時はなった時で、今回、図書館側は使えませんので、美術館側でなんとか対処して戴けませんとか、そういう事も出来ないのでしょうか。

出来る所でしてもらえませんかという事で。今までに無かったら無かったで、講演会を他所でしていたっていう事もあるじゃないですか。文化ホールとかで。

(角次長)

その質問にお答えする前に、ちょっと前にありました施設の休館日をそろえるというお話なのですけども、

古いお話で、我々もちょっと知らなかったんですけども、歴史館と美術館とそれと図書館については、休館日を合わせないという事が、1つはこの中心市街地の賑わいといいますか、そういったようなものに寄与出来るというような1つの方向性は有るようです。従いまして、月曜日が図書館で、火曜日が歴史館、で、水曜日が美術館というような。それはまあ敢えてそれに意味が無いというふうで有れば、それはそれで1つは、考える所は有ると思いますけれども、今回これに合わせてどうのこうのというのは、少し時間がかかるのかな、というふうに思います。

(細田座長)

確かに中心市街地から人がいなくなるっていう寂しさっていうのもやっぱりあるかもしれないし、昔、商店街のアーケードがある程度賑わっていた時に、人の出入りとやっぱりお店の経営とか、何かそういうものを考えられたのかもしれないですけど。

(角次長)

市内にあるホールもそういうような考え方で、少しずつずらして、大体火曜日、水曜日あたりに分けてあったりするようです。そういうやり方で運用しています。

(細田座長)

まあ、これだけ隣接した施設ですので。

(渡邊委員)

絶対、使い勝手がいいですよ、同じ休館日にしておいた方が。

(細田座長)

ご検討いただくっていうことで。

(角次長)

今後の検討という事で。今後っていうか、そういう議題を出させて戴くっていう事で。

(渡邊委員)

でもまあ、今後の議題にしちゃいますと、どうしてもじゃあ、必然的に今回はシャッタ



ーは入れなきゃいけないという事なんですネ。

シャッター、今、2千万っていわれましたっけ。も掛かってちゃうんですよ。

大屋根と同じくらいの料金。

**(細田座長)**

シャッターは、シャッターで全部やるというより、もう少しシャッターで絶対区切らないといけない所はシャッターだけど、他はもう何か簡易的なものとかで対応すると。

よく学校開放なんかでもやってるんですけど、特別教室と普通教室の間にシャッターをバシッと降ろすところもあれば。

米子は治安いいと思いますけど、ポールを立てて人の出入りだけ単に行かせませんという対応で済ませているところもありますから。

確かにシャッターはメンテナンスも金がかかるとは思いますんで、少し枚数を減らす方向でいかれたらいいかなと思いますけど。どうでしょう。

シャッターについてはなるべく減らして、費用を他のところにかけるということを懇談会としては、希望するという事に。

**(渡邊委員)**

何か、シャッターって、いかつい感じで、文化施設に似合わないような気がするんですけどね。

**(長田委員)**

図書館一ついいですか。女子のトイレ。いいですか。

トイレは増やす。

美術館も2階はだめなんだね。こないだ、お年寄りがわしゃ間に合わんかもしれんと。

**(細田座長)**

ちょっと美術館の方に話を移したいと思います。

長田委員の方からトイレについて、ムードあるトイレにというような話とか、収蔵庫について収蔵しやすさというような話がありましたけども、それについては、内装も全部変えるしと、考えられているという事でしょうか。

**(角次長)**

内装は全て変えますので、従いましてトイレの方もご希望に沿えるかどうかは別にしまして、変える予定で考えております。収蔵庫の方の中は、今、仮の図面でございますので、中については、学芸員と相談をして、棚なんかの配置は考えるという事にしております。

**(長田委員)**

中長期の話ですけどね、収蔵庫は棚さえ付けときゃええだないかつちゅう話もあって、そんなに大事な何千万円もするやつを上積みわけにはならんので、収蔵に関して心配しておられたもんで。その辺の収蔵品に対する本格的な美術品の収蔵の手当てちゅうのがどの程度してあるかなっていう。それはしてあるでしょうかね。

**(角次長)**

油絵なんかのかなり高いものについては、鉄骨の骨組みの中にですね収まるようにしております。普通の棚ではございません。当然棚の中に入れるものもございませけれども、そういうような、何というか、価値を見ながら、収蔵には気を使っております。

**(長田委員)**

そんなような心配をされた方がありました。

それからトイレが2階。年寄りがよう、美術館行くけど、1階までエレベーターで降りるのが大変で間に合わなくて言うておられた方があったもんで。

2階はなんかつけにくいはずでしたよね。

(角次長)

ここで言えば、先程の収蔵庫、倉庫を収蔵庫に変えますけれども、これをトイレに変えるという事で有ればですね、スペース的には有るんですけども、他の場所は、2階についてはもう一切ございませんで、この度の改修の中では、2階のトイレというのは諦めざるを得なかったという事でご理解戴きたいと思います。

(長田委員)

その辺がちゃんと考慮してあるなら、ということです。お年寄りの女の人が心配を言うておられた方がおられました。

(田中職務代理)

以前の計画と1階のこの授乳室、控え室の場所が変わったんですけども、僕は前の計画の方が良かったんじゃないかと思うんですけども、授乳室が手前にある方が。1階の第2展示室横の授乳室の位置。

(角次長)

田中委員さんがおっしゃるように、以前は前にあって狭かったという所と授乳室に入っておられる横を通過して、控え室に入るなんていうような事が、非常にやりにくいのではないかとこの配慮をさせて戴いて、ひっくり返したというような経緯があるのではないかと思います。これはむしろ、なかった方が良かったのですかね。

(渡邊委員)

すいません。女性の立場からいくと、今回の方がありがたいです。あの前回は、男子トイレのというか、前にありますよね。なので、やっぱり授乳しにいくとしたら、女子トイレのこの横で、この方が使いやすいなあ、女性にはありがたい仕様になっているなあ、っていうふうには思います。今の方が使い勝手がいいです。私の個人的な意見です。

(細田座長)

確かになんとなく、横を通られるのっていうのは気持ち悪いのはありますね。

(渡邊委員)

嫌です。嫌です。ちょっと嫌です。

(細田座長)

その他の委員からありませんでしょうか。

オープンスペースについては、喫茶的な厨房もちゃんと付いたものになってますけども、これについてはどうでしょうか。

(渡邊委員)

あの再度意見なんですけども、今、オープンスペースといわれた、書かれているのは喫茶室になってますけれども、やはり図書館・美術館を利用した人達が、寛いで休憩出来るっていう意味でも、本当に喫茶室的なような所であって欲しいと強く思います。ただ、自動販売機が置いてあるとかっていう事だけは、やめて欲しいなと思います。

(田中職務代理)

喫茶室って、風除室いるんですか。

(細田座長)

これですよねえ、僕もいるのかなと思ったんですけど、もしも何か営業される場合だと、何かそこに見本とかを並べるようなスペースがあるかもしれないんですけど、風除室をつけられた意図は。分からない。設計者の方、答えていただいたら。

(角次長)

完全に外を向いていますので、外から入ってそのままというよりは、雨の日には傘も有るだろうし、色んな意味で、風除室とってここが、中が囲われた事になってますけど、ガラスかなんかで、そんな開放的な雰囲気は出るんだと思います。ただ中に入っている人に、扉を開けて風が中に入ってきたりするようではあんまりよくないですね。

(細田座長)

美術館のメインの入口のガラスっていうのは、新しく付け替えるっていうことですか。

(角次長)

2階まであるような大きなガラスは、そのままです。景色もいいという話も聞いておりますので。

(細田座長)

もう少し明るくなくても、いいかなと思うんですけど。確かに中からは雰囲気がいい、外からはちょっと暗いかなと思います。但し、今回風除室の所がかなり増えたのでどうなるかといった所ですが。

全体に対してご意見がありましたら。

(渡邊委員)

はい。全体でという事でもう1回図書館に戻るんですけど、実は先週この委員会が終わった後に、私、東京の方の国会図書館、それから国際児童館の方で文科省の開かれた勉強会に第2回目だったんですけど、毎月行かせて戴いています。その中で強く思った事は、国際児童館の中に良書。これだけは、どうしても子ども達に手渡したい、目に触れさせたい、これだけはどうしてもずっと繋げて行きたいという良書がきちんとそろっていたという事。その悪い、良いというのをどういう風に見極めるかっていったら、それはやっぱりプロの司書の方だと思うんですね。ただ、たくさん本があるだけが図書館ではなく、きちんとした専任の司書の方がいて、その良書を選んで、その居心地の良い空間を作って、そこに一般の市民達が集う。ちょうど夏休みでしたので、開架の中で、違う部屋で勉強していたんですけど、調べ学習に必要なものっていうものが本当に整然と書かれていて、あ、おとうさんもおじいちゃんもおばあちゃんも、どなたでもゆったりと寛げる、これが本来の図書館であって、文科省の方も図書館というものは、市民の人達がそこで調べたいもの、全ての情報が色んな形で手に取れる場所であって、皆さんに平等な場所でなければいけない。今、鳥取県を考えると本当に読書の費用とか、そういうものが市町村によって全然違うので、この際、米子も遅れてる部分を読書の方といおうか、図書館、そういう文化の方にお金をかけて戴けたらうれしいなっていう事、意見として、お願い致します。

(中川委員)

前々からお願いしていたんですけども、対面朗読室というか、ああゆう、お部屋が2つ出来た事を大変嬉しく思っております。そこで是非音声パソコンというか、PCトーカーを自由に聴ける設備を是非設置して欲しいと思いますので、よろしくお願い致します。

県立図書館の方はそのPCトーカーのお部屋がつくってありますので。対面朗読室とは別につくってありますので。これからは音声パソコンの時代だと思っておりますので、よろしく

お願い致します。

(長田委員)

このエントランスの壁面。大きな壁画かなんかや彫刻をつけようとしたときに、壁の構造がわからんからというので、おじゃんになったことがありますけどもひとつ、美術館のほうにはいろんな目的があるわけですから、考慮してやってもらえる。

何をどうせいちゅうのは、私も良くわかりませんが。

そういうことを言うておられる方があります。

(細田座長)

エントランスに壁画が吊れるようにということですか。

(長田委員)

壁がね、壁画を吊るほどの強さがあるかな、とかね。

(細田座長)

エントランスに壁画という話がありました。

(角次長)

今直ぐに何かがというような計画も有りませんし、長田委員がおっしゃいますように、そういうものは機会があれば、そういう事も有り得るかもしれません。ちょっと壁面の強度の具合っていうのもありますので、ブロンズかなんかで、でかいような物がというような事は、難しいかもしれませんが。

(長田委員)

ちょっとしたでこぼこなんだけど、材料がいろいろあるわけですから。

それは、あったときの話でいいですよ。

(細田座長)

今日出して戴いた意見の中を、基本設計に入るまでの最後のですから整理させていただきたいと思いますが、先ず、渡邊委員の方から駐輪場に関して、サイン計画とか向きを検討して戴きたいという話がありました。また、何度も言われてましたけども駐車スペースへの配慮ですね。それと長田委員の方からは、芸術の場所であるからそういった品位がある場所にして欲しいというお話がありました。

中川委員の方からは、屋外彫刻、そして今後の予算で措置して戴きたいというお話がありました。

委員の総意だと思いますけれど、図書館部分のデッキテラスについては、付けて頂いて、アールの壁の部分ですね、威圧感がないようにデザインを検討して戴きたいと思います。

後はですね、まあ、図書館の中では色々な意見も有りましたが、特には、トイレですね。女性用の個数を増やすのを検討して欲しいという事と、中川委員、渡邊委員からは、図書館・美術館の休館日を是非合わせて、一体的に運用が可能なようにして欲しい、それに合わせて、シャッターの運用も、設置個数なども見直されて、その分の費用を図書館部分の中の充実に使って戴きたいというお話がありました。

また、長田委員の方からは、収蔵庫だとか内装について、品位のあるものにして戴きたいというお話がありました。

あとはですね、全体については、中川委員が毎回、非常に身障者の方の意見を取り入れてくださってますけども、PCトーカーについて強い希望が、毎回、寄せられていたと思いますので、是非設置していただきたいと思います。また、長田委員が最後に、エントラ

ンスホールのムードがあるような、まあ演奏もしてるので、エントランスの壁画などにも対応出来るように、この際少し耐力なども確認されてそういったような検討を進めていただきたいというような事が有りました。

今回で最後ですけども、大体ご意見は戴いたかなと思いますれども。

事務局の方から、今後予定について少し、永見さんの方から。

#### (4) その他

##### (永見課長)

はい、今後の予定でございますが、今日第4回目の市民懇談会を開催致しまして、今、細田委員長の方から、最終的な要望、市の意見をまとめて戴きました。これを持ちまして、基本的な市民懇談会を受けた、その前段のパブリックコメント、市民からの色々なご意見を踏まえた上での、基本設計の(案)というものの策定に入りたいと思います。これを持ちまして、今後教育委員会ですとか議会への説明をしていきながら、米子市としての最終的な基本設計の修正案として、確定をしていきたいというふうに考えております。

で、そう致しますと、あと基本設計の製本でございますけれども、9月末を契約期間としておりますので、9月末までに製本化というふうな作業を進めて行きたいというふうに考えております。

製本の完成(案)につきましてですけれども、委員の皆様方に最終的に基本設計として、まあこういうように出来ましたという形で、何らかの形でお示ししたいというのが、当面の計画でございますが、その後につきましては、年度一杯に向けて実施設計を完了しながら、当初からお話しておりますように、来年度早々から、二中の解体工事ですとか、その後の施設の改修工事を踏まえまして、25年の秋、予定通り開館という形を考えておる所でございます。以上です。

##### (細田座長)

9月末に基本設計が完了するという事なのですけれども、10月に市民懇談会の方々に説明会を是非行っていただきたいというふうな私の方からお願いしたいと思っております。

##### (渡邊委員)

10月っていわれましたね。ちょっとすいません。1個だけ付け加えておいていいですか。ちょっと心配な部分が有りまして。3ページのところを見ていただいてもいいです。さっき触れるのを忘れたのですけれど、図書館のエントランスホールの所に荷物用ロッカーって書いていますよね。あの、一杯荷物を持って来た時に、置き場所が無いっていう事を色々いつもよく聞いてたので、置き引きとかも多発していた時期が有りまして、これはありがたいなっていう事と再度、やっぱり児童書の所には直ぐに設置は無理でも、児童書のカウンターは是非お願いしますっていう事をちょっと忘れない内にもう1回お願いします。先ほどちょっとなかったのです。

##### (細田座長)

渡邊委員の方から荷物用ロッカーを、これはきちんとしたものを設置するという事ですね。

##### (渡邊委員)

希望です。

##### (細田座長)

希望として、児童用にもカウンターを設けていただいて、やっぱり児童書架をきちんと

運用するためには人的な配置をして頂きたい必要という事ですね。

私もそう思います。人の問題はなかなか大変ですけど。

**(渡邊委員)**

いります。

**(細田座長)**

合わせて適正な人員配置もして戴きたいという事ですね。

やっぱり目玉になる、前回も長田委員、渡邊委員からもありましたけれど、今回の図書館は子どもに焦点を当てた、リニューアルをしましたっていうような目玉は児童書架のところにありますという話がありましたので、人員配置についても、その目玉ははずさないように善処戴きたいなというふうに思います。

**(長田委員)**

今の多目的研修室なんですけれど、プロジェクターが映せればいいっていうものじゃなくて、多目的研修室だからいろんな教育が出来るようにということになると、同じプロジェクターでもちゃんとコンセントをちゃんと考えとくとか、多少、教育用に、設備的にですね、ちょっとした工夫があるかなど。今頃スクリーンはどこにでもありますけどね。やっぱり、今、こういう時代ですから、3D映したり、理科の勉強なんかでもいい画が映せるように。

**(渡邊委員)**

ですね、だから2階の研修室の所、ITに対応出来るようになっていたら、ありがたいですね。

**(細田座長)**

今後、実施設計段階でしようけれども、2階の多目的研修室は、グレードの高い設備を入れて頂くということですね。

**(長田委員)**

建築のときに一番あれなのが電気関係どうするかっていうのが、一番あれなんです。そこが設計のきもだから今から考えておかなければならない。

**(渡邊委員)**

ですね。で、子どものところの先程の1階の所、忘れていたんですけど、お話の部屋のコーナーは、暗幕をつけれるようにしておいて戴きたいと思います。もう当たり前で全国的にお話会、ブラックライトを使ったお話会が増えていますので、今、暗幕がないので、それが出来無い状況なので。

**(細田座長)**

暗転できるようにってことですね。

**(渡邊委員)**

ああ、そうです。

**(細田座長)**

非常に細かい実施設計にもかなり踏み込んでいると思われそうですが、是非、実施設計前にぜひ聞いて戴いて、細かい部分についても要望を組み取っていただきたいというふうをお願いいたします。

**(永見課長)**

そうしましたら、今後の予定を先程ちらっと言いましたけれど、10月までに基本設計

を策定する事となりますが、策定し次第、委員の皆様はそのときに説明会という形になるかとは思いますが、基本設計について説明の会を設けますので、ご出席戴きますようによろしくお願ひしたいと思います。そうしましたら、これまで皆様方にご協賛戴きましたけれども、最後に事務局長の本池の方からお礼のご挨拶を申し上げます。

(5) 閉 会

**(本池事務局長)**

今まで、どうもありがとうございました。たくさんのご意見を戴きまして、全てが全て実現出来ておりませんが、今日のご意見も含めまして、出来るだけ基本設計の方に入れ込んで、出来るところは行いたいと思っております。また基本設計が出来まして、実施設計の段階に入りますけれども、運用面も含めましてより良い図書館・美術館の運営が出来ますように、教育委員会をはじめと致しまして、一生懸命努力して参りたいというふうに考えておりますので、また今後とも色々な面でご支援、ご鞭撻、ご指導を戴きたいと思ひます。

本当にありがとうございました。